

高岡市埋蔵文化財調査概報 第55冊

麻生谷新生園遺跡 調査概報

— 平成14年度 高岡市麻生谷地内
西側急傾斜地区の砂防改良工事にともなう発掘調査 —

2004年3月

高岡市教育委員会

序

高岡市域におきましては、200箇所以上にもおよぶ埋蔵文化財包蔵地が所在しております。これらは、すべて我々の祖先が築きあげてきた輝かしい結晶であり、当市の歴史の深さに改めて敬意を表するとともに、こうした貴重な遺産を後世に伝えていきたいと考える次第です。

本書に報告しますのは、麻生谷新生園遺跡における平成14年度の発掘調査の成果です。この周辺地域につきましては、文献史学的考察により、川合郷や川人（合）駅などが比定されてまいりましたが、過年度の調査においては、官衙的な遺構群が検出され、双方の照合がすすめられているところです。

今回の発掘調査におきましても、弥生時代から中世までの幅広い年代の遺物が出土しておりますが、これらを精査しましたところ、東日本系の弥生土器も含まれていることが確認されました。このことについては、当地域の歴史の複雑さを垣間見たものと感じる次第です。

本書につきましては、当地の歴史を知るうえでも貴重な資料になると思われますので、学術調査や郷土の歴史研究などにも、お役立ていただければ幸いです。

末尾になりますが、この調査にご協力いただきました、関係各位ならびに地元の皆様に、厚く感謝を申し上げます。

平成16年3月

高岡市教育委員会

教育長 細呂木 六良

例　　言

1. 本書は、高岡市麻生谷新生園遺跡（西側急傾斜地区）における発掘調査の概要報告書である。
2. 当該事業は、富山県高岡土木センターによる高岡市麻生谷地区の砂防改良工事にともない、同センターから高岡市教育委員会が委託を受けて実施したものである。
3. 調査関係者は次のとおりである。

課長 大石茂

課長補佐 天谷隆夫（～平成14年度）

副主幹 本林弘吉（平成15年度～）

課員 根津明義、荒井隆、太田浩司

4. 当発掘調査事業にかかる調査参加者は次のとおりである。（五十音順、敬称略）

池田昌美 石田敏行 岩瀬政顕 柏島大輔 黒田忠明 菅原幸 高嶋輝雄 竹内喜三 田中美穂子 岛山行男
中田郁子 西野まり子 馬道弘一 藤井英紀 前山智恵 南尚子 宮野美重子 占田栄子

目　　次

本文

| | |
|------|----|
| 序　章 | 1 |
| 検出遺構 | 2 |
| 出土遺物 | 4 |
| 結　語 | 10 |

挿図及び遺物実測図

- 図1. 麻生谷新生園遺跡（西側急傾斜地区）・調査区位置図
図2. 麻生谷新生園遺跡（西側急傾斜地区）・調査区全体図
図3. 弥生土器・拓本実測図
図4. 遺物実測図（須恵器・蓋、杯）
図5. 遺物実測図（須恵器・杯、壺、瓶）
図6. 遺物実測図（須恵器・大甕・土師器・杯、碗）
図7. 遺物実測図（土師器・杯、碗、甕　内黒土器　珠洲・甕、鉢）
図8. 遺物実測図（珠洲・鉢、すり鉢　青磁・碗、壺　土錐　砾石）

写真図版

- 図版101. 調査区全景（垂直写真）
図版102. 調査区全景（東方から）
図版103. 調査区全景（北方から）
図版104. 出土遺物（須恵器・蓋、杯　内黒土器　土師器・椀、甕）
図版105. 出土遺物（須恵器・蓋、瓶）
図版106. 出土遺物（須恵器・大甕）
図版107. 出土遺物（土師器・杯、椀）
図版108. 出土遺物（土師器・杯、椀）
図版109. 出土遺物（珠洲・大甕、鉢、すり鉢）
図版110. 出土遺物（土錐、砾石）
図版111. 出土遺物（弥生土器）
図版112. 調査風景（表土剥ぎ）
図版113. 調査風景（土坑SK02掘削状況）
図版114. 調査風景（土坑SK02掘削状況）

序 章

遺跡概観

「麻生谷新生園遺跡」は、高岡市域の西端部付近に位置する遺跡である。その南方には小矢部川によって形成された平野部がひろがり、これを除く三方では西山丘陵が高く聳え、上記の平野部を見おろしている。

この周辺は、文献史学的研究により、古代における礪波郡川合郷や川人（合）駅が所在したものと推測されてきたが、近年における発掘調査からは、その是非をはかるための資料が蓄積されつつある。麻生谷新生園遺跡の周辺においては埋蔵文化財包蔵地が密集する傾向にあるが、広域を対象にその分布傾向を鑑みるならば、当地域では一つの遺跡群を形成しているものと考えられる。また、個々の包蔵地の年代を検討するならば、大局的には弥生時代から近世いたるまでの長期の存続を考慮することが可能であるため、在地的な様相が所在していた可能性もある。

ただし、麻生谷新生園遺跡と西接する丘陵上には石堤拍掌古墳群が形成されているほか、この南方に位置する麻生谷遺跡では古代における官衙的な施設が検出されているため、概して当地域においては、在地的な様相が展開する傍らで、公的かつ統括的な様相も並存していたと考えられる。

なお、麻生谷遺跡では「人長」と墨書きされた須恵器も出土しており、これを『川人駅長の略』と解することによって、同遺跡を川人駅の関連とする積極論も提起されている。しかし、神社関連の用語にこの墨書きと同様のものがあるうえに、近隣には式内社の浅井神社も所在する。また、上記した官衙的な建物群についても、これまでの研究史を考慮するならば川合郷との照合も行うべきであり、総じて、当地の歴史的様相を解くにあたっては、現状では、冷静かつ詳細な検討をする段階にあるものと受けとめるべきであろう。

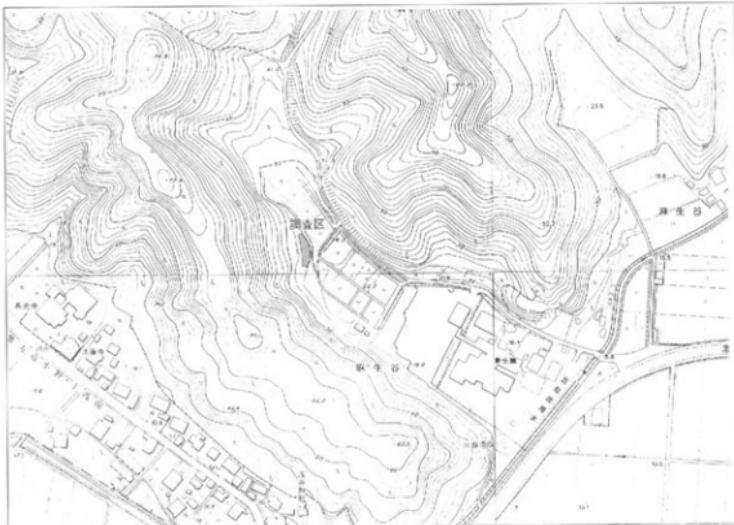


図1. 麻生谷新生園遺跡（西側急傾斜地区）・調査区位置図
『高岡市都市計画基本図』に加筆

調査にいたる経緯

今回の調査は、富山県高岡土木センターによる高岡市麻生谷地区の砂防改良工事が計画されたことに伴い、その施工範囲にかかる埋蔵文化財への照会が高岡市教育委員会に寄せられてきたことに端を発するものである。

しかし、当該地については、麻生谷新生園遺跡の包蔵地及びその近隣であったことから、事前に試掘調査を実施する必要性が生じた。そこで、高岡市土木センターと高岡市教育委員会との間で協議が行われ、ひとまず試掘調査を実施して地下の様子を窺うこととなった。

試掘調査は、同年の9月6日から10月15日にかけて実施されたが、一部の地点から遺構及び遺物が検出され、この周辺には本調査を実施する必要があるものと判断された。これを受け、高岡土木センターと高岡市教育委員会との間で再び埋蔵文化財保護にかかる対応を検討する場がもたれ、平成14年11月20日から本調査を実施することで合意し、これに着手した次第である。

調査区概観

今回の調査区は、県立新生園の西側の丘陵部に位置する。概して周辺における自然環境の影響を強く受け、その中央部を境に、地形と基本土層という2つの点で相違点がみられる。

すなわち、調査区の中央部から北側にかけては平坦部が広がっており、ここでは土坑や溝状遺構などが確認されているが、地山は拳大ほどの自然石が含まれる傾向にあった。一方の調査区中央部から南方にかけては、北側でみたような自然石はほとんど含まれていなかったものの、概して地形が下降する傾向にあり、遺構もSK02とした大型の土坑を1基検出したにとどまっている。

検出遺構

土坑 SK01

調査区北側の西端部で検出された遺構である。片側が丘陵側の調査区外へと達するため、その全貌までは明らかではないが、現状においては、直径1.4mを呈する円形の土坑、もしくは溝状遺構の一例となる可能性があると思われる。

遺構の深さは確認面から約20cmをはかり、断面形はゆるい皿形を呈する。覆土は黒暗褐色土(Hue10YR3/1)を呈する單一層である。特に遺物の出土はなかった。

土坑 SK02

調査区内の南部で検出された土坑である。片側が丘陵方向の調査区外へと達するほか、南東方向の端部も後世の攢乱と切り合うため、全体の平面形は明らかではないが、確認される範囲では不整形形を呈するものと思われる。

遺構の深さは確認面から約30cmをはかり、断面形は浅い皿形を呈している。本址からは多枚の遺物が出土しており、今回の調査区から出土した遺物の大半を占めている。覆土は黒暗褐色土(Hue10YR3/1)の單一層である。

なお、本址は傾斜地に所在するため、南北の肩部には60cmほどの高低差がある。

土坑 SK03

調査区の中央から北側の地点で検出された土坑である。平面形は長径3.5m、短径1.8mの梢円形を呈する。遺構の深さは約20cmをはかる。覆土は褐色土(Hue10YR4/1)の單一層であり、断面形は浅い皿形を呈する。

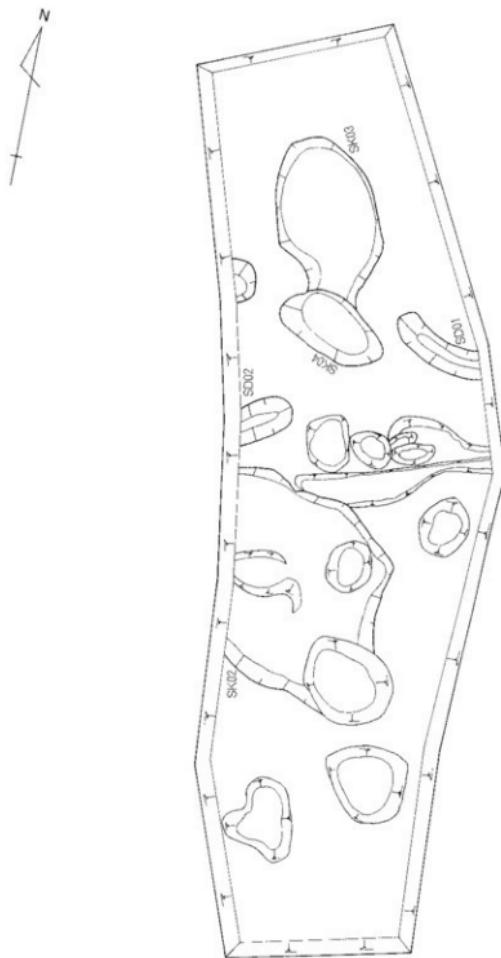


図2. 麻生谷新生園遺跡（西侧急傾斜地区）・調査区全体図 縮尺1/150

本址は後述するSK04と切り合っているが、土層観察から新旧関係を把握することはできなかった。また、本址からは遺物の出土もなかった。

土坑 SK04

調査区の北側で検出された土坑である。平面形はやや不整形な梢円形を呈しており、確認される範囲では最大長5.5m、短径3.2mの規模を呈すると思われる。

遺構の深さは確認面から最大25cmほどであり、断面形は浅い直形を呈する。覆土は褐灰色土(Hue10YR4/1)の單一層で、特に遺物の出土はなかった。本址はSK03と切り合っているが、新旧関係は不明である。

溝状遺構 SD01

調査区中央の東端部において検出された溝状遺構である。片側が調査区外へと達するため、その全貌などは不明であるが、現状においてはやや屈曲をみせながら3mほどが検出されている。

断面形はU字形を呈しており、確認面からの深さは約20cmをはかる。覆土は褐灰色土(Hue10YR4/1)の單一層である。遺物の出土はなかった。

溝状遺構 SD02

調査区中央の西端部において検出された溝状遺構である。片側が調査区外へと達するため、その全容などは不明であるが、現状では2mほどの全長を有することが確認されている。

断面形はU字形を呈しており、遺構の深さは確認面から約20cmをはかる。覆土は褐灰色土(Hue10YR4/1)の單一層である。遺物の出土はなかった。

出 土 遺 物

須恵器(図4～6)

当調査区からは、8世紀後半代から9世紀代の須恵器が出土している。現時点では、壺や甕といった貯藏具の占める割合が比較的高いという傾向にある。

なお、当遺跡と接する麻生谷遺跡では、平成7年度の発掘調査において、古代における官衙的な様相を抽出するにいたっているが、当調査区においては概してそしした色彩が薄く、双方には異なる様相が展開していた可能性もあるかと思われる。

土師器(図6～7)

当調査区から出土した十師器については、概して9世紀代以降の古代のものと中世のものとに区分することができる。後世の破損や磨耗などにより、接合はおろか、その調整法の識別さえも不明なものが多いが、本書に図示していないものを含めても、中世の十師器については食膳具が圧倒多数を占める傾向にある。

なお、煮炊き具については図示したものを含む数点しか出土していないが、いまのところ、古代のものが多いという傾向にある。

内黒土器(図7-2043～2044)

当調査区からは内黒土器も2点ほど出土している。遺物番号2043は、上部を欠損しているもの小型の椀ないし鉢になると思われる。遺物番号2044については、高台を有する杯又は椀である。辛うじて実測をすることことができたが、後世の磨耗や破損により調整法などは判別しがたい。

珠洲（図面7～8）

当調査区からは、蓋をはじめ、鉢、すり鉢といった器種で構成される珠洲も出土している。年代的には12世紀後半から15世紀のものが出土しており、長期にわたり、中世の様相が存続していた可能性がもたれる。

麻生谷遺跡の平成7年度調査区からも同時期の遺物が出土しているが、当該期の様相は谷部にまで及んでいた可能性が浮上したものと思われる。

青磁（図8-3007～3008）

当調査区からは2点ほど青磁が出土している。遺物番号3007は、内面に放射状の文様を有する碗である。一方の遺物番号3008とした盤又は鉢については、体部内面において蓮弁文の一部が見受けられる。

いずれも細片であるため詳細は不明であるが、概ね縫倉期のものではないかと思われる。

弥生土器（図3-6001～6002）

当調査区からは、天王山式、又はこれに近い型式の土

器片が2点ほど出土している。遺物番号6001は壺の口縁部であり、一方の遺物番号6002については壺または甕の一部とみられる。当遺跡以外でも高岡市間尽遺跡や石塚遺跡において、こうした土器が検出されており、今回の出土からは、この様相がさらに広い地区にまたがって所在したことと言及しうるであろう。

なお、土器の検討にあたっては、小島俊彰氏より有益なご教示をいただいた。

土鍤（図8-4001～4006）

当調査区からは7点ほど土鍤が出土している。後世の磨耗や破損などにより、原形をとどめていないものもあるが、図面104においては、このうちの圓化しする6点を掲載した。現状においては球形を呈するものと、やや長胴ぎみのものとが見受けられる。

砥石（図8-5001～5002）

当調査区からは砥石も2点ほど出土している。遺物番号5001としたものは、最大長8.1 cm、最大幅6.6 cmのやや大型の規格を呈する。石質は砂岩であり、使用面は2面とみられる。

一方の遺物番号5002については、最大長3.1 cm、最大幅2.8 cmという規格を呈している。長期に及ぶ使用のためか、かなり小型の規格をもち、断面は三角形を呈している。石質は砂岩であり、使用面は3面とみられる。

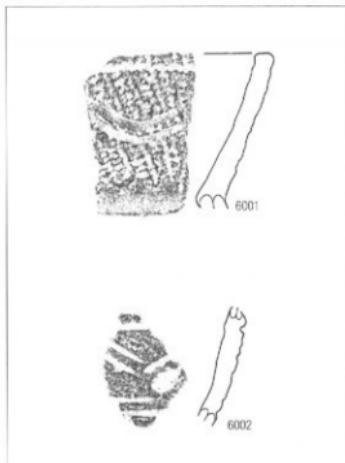


図3. 弥生土器実測図（縮尺2/3）

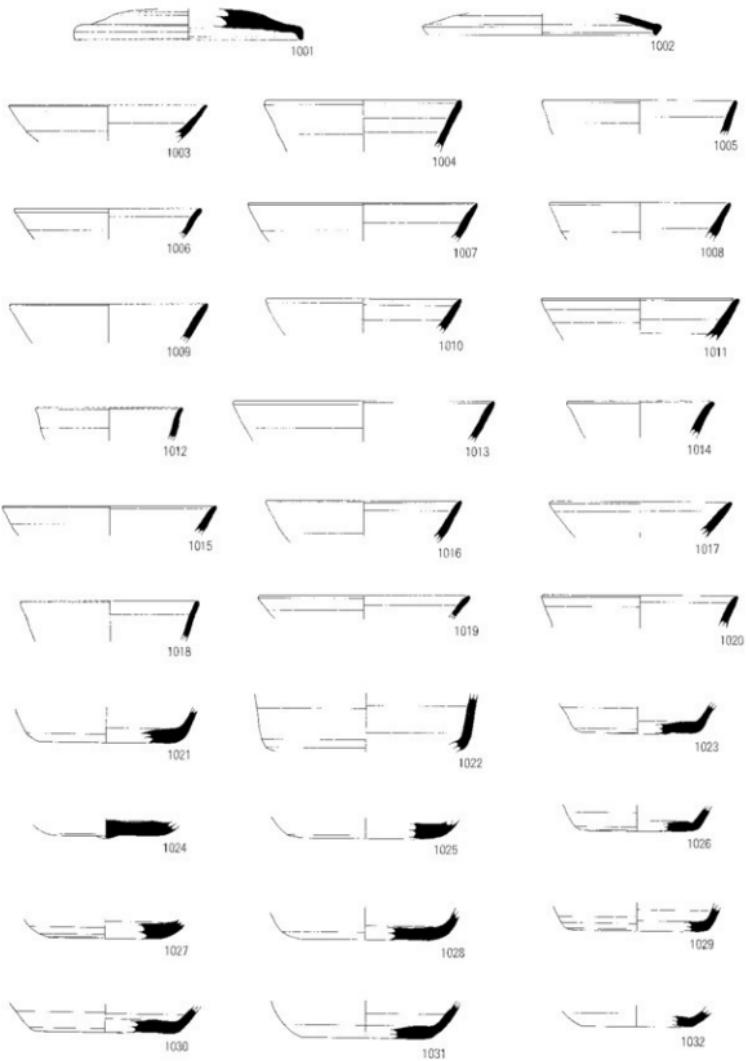


図4. 出土遺物（須恵器・盃、杯）

縮尺1/3

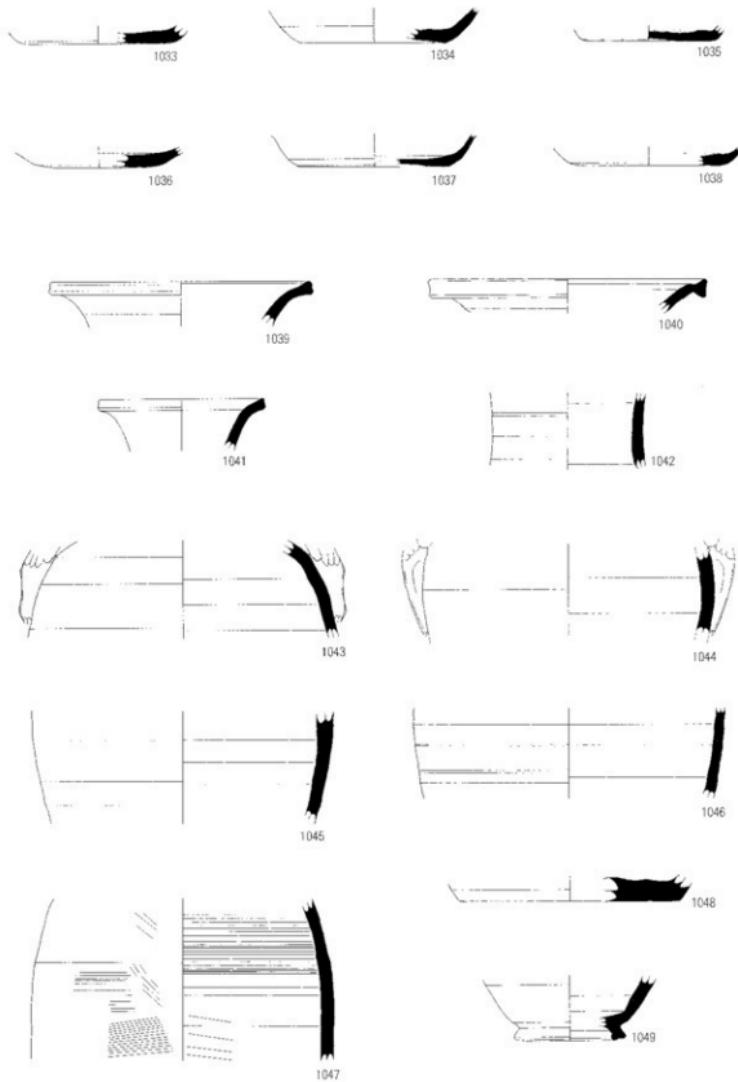


图5. 出土遗物(拟盂器·杯, 盆, 瓶)

缩尺1/3

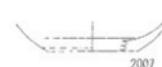
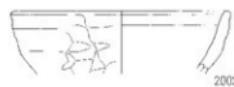
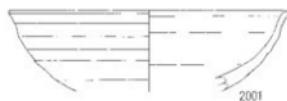
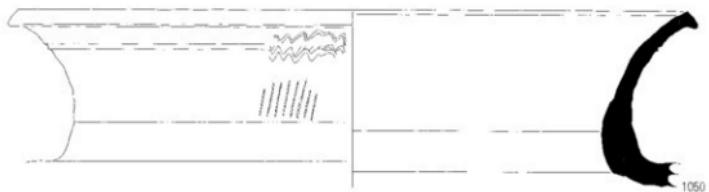


图 6. (須恵器・大便　土的器・杯、杓)

縮尺1/3

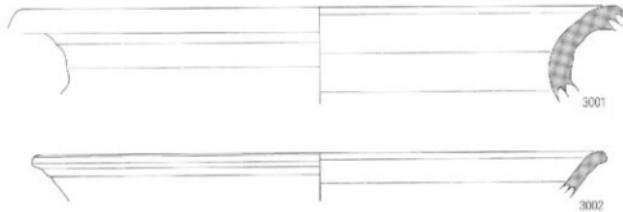
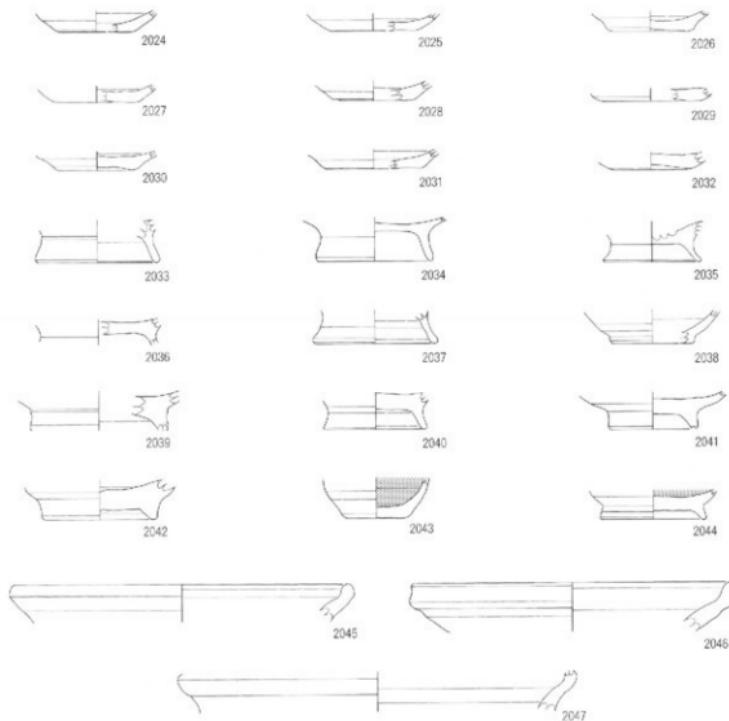


図7. 出土遺物（土師器・杯、碗、壺　内黒土器　洗滌・壺、鉢）

縮尺1/3

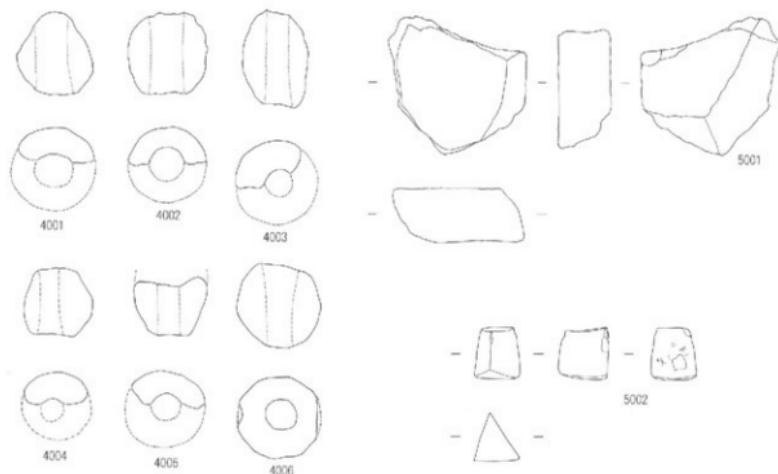
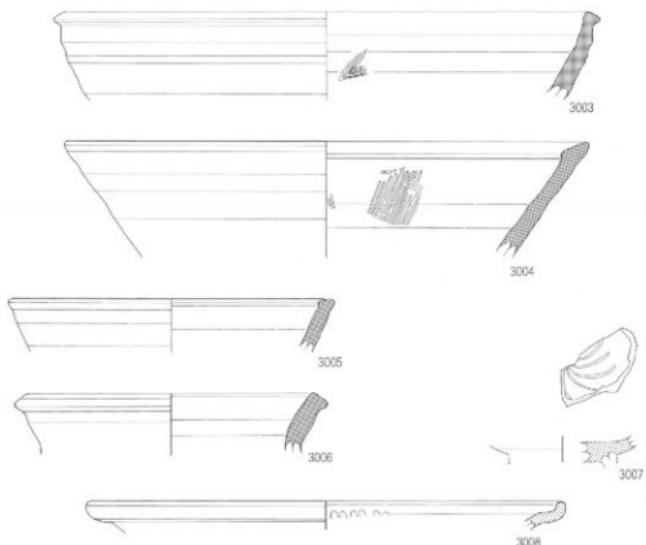


図8. 出土遺物 (珠洲・鉢, 斧り鉢 青磁・柄, 盤 土鍾 砥石) 比尺1/3

結 語

麻生谷新生園遺跡は、高岡市石堤地区に所在する縄文時代から近世にいたる遺跡群の一角をなうものである。今回の調査による検出物を概観するに、必ずしも具体的なものはなかったが、天王山式土器、もしくはこの系統をひく可能性のある東日本系の弥生土器を検出したことについては、周辺地域における当該期の動向をとくための一助になっていくものと思われる。

なお、今回検出された古代の遺物を概観するならば、煮炊き具の出土が少ないと反面、貯蔵具の占める割合がやや多いという傾向が窺われている。現状においては調査範囲があまりにも狭く、また、遺物の出土量も少ないため、これだけをもって周辺の歴史的様相について言及することは危険であるが、こうした遺物の出土傾向が今後の調査を経ても不動のものであるならば、当調査区の近隣においては、貯蔵行為に関連のある様相が所在した可能性も浮上していくものと思われる。また、当調査区からは多岐にわたる年代の遺物が出土したもの、官衙的な遺物がみられなかつことから、この近隣地区については、官衙的な様相とはやや色彩の異なる存在にあつた可能性もあるのではないかと思われる。

当地域における歴史的様相を解くにあたっては、今後も詳細な検討を重ねていく必要があることは言うまでもないが、ここでは当調査において得られた資料をもとに、上記のような最大解釈を述べ、今後における研究への橋渡しとしておきたい。

【参考文献】

- 角川書店 『日本地名大辞典16 富山』 1978
国史体系編纂会 『国史体系一交替式・弘仁式・延喜式一』 吉川弘文館 1965
高岡市教育委員会 『高岡市遺跡地図』 2000
高岡市教育委員会 『麻生谷遺跡・麻生谷新生園遺跡調査報告』 1997
高岡市教育委員会 「石堤長光寺遺跡 長光寺墓地地区」『市内遺跡調査概報』 IV 1996
高岡市教育委員会 「麻生谷新生園遺跡 村田地区」『市内遺跡調査概報』 VII 1998
高岡市教育委員会 『国吉・石堤地区遺跡調査概報』 1999
根津明義 「(富山) 県西部における古代交通研究について」『大境』 21, 22合併号 2000

※、本書における土層の識別においては、『新版 標準十色帖』を使用した。

報告書抄録

| ふりがな | あそやしんせいえいせき ちょうさがいほう | | | | | | | |
|----------|---|----------------|-------------|--|--------------------|---------------------------|-------------------|--------|
| 書名 | 麻生谷新生園遺跡 調査概報 | | | | | | | |
| 副書名 | 平成14年度 高岡市麻生谷地内西側急傾斜地区の砂防改良工事にともなう発掘調査 | | | | | | | |
| シリーズ名 | 高岡市埋蔵文化財調査概報 | | | | | | | |
| シリーズ番号 | 第55冊 | | | | | | | |
| 編集者名 | 根津 明義 | | | | | | | |
| 編集機関 | 高岡市教育委員会 | | | | | | | |
| 所在地 | 〒933 8601 富山県高岡市広小路7番50号 Tel.0766-20-1463 | | | | | | | |
| 発行年月日 | 西暦2003年3月26日 | | | | | | | |
| 所収遺跡 | 所在地 | コード | | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 調査面積 | 調査原因 |
| | | 市町村 | 遺跡番号 | | | | | |
| 麻生谷新生園遺跡 | 富山県 高岡市 麻生谷 地内 | 01602 | 202036 | 36° 44' 40" | 136° 56' 20" | 20021120 ~ 20021225 | 294m ² | 砂防改良工事 |
| 所収遺跡 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | | | | |
| 麻生谷新生園遺跡 | 集落等 | 弥生時代、古代、 中世 | 土坑、 溝状遺構 | 弥生土器、古代須恵器、古代土師器、 中世土師器、青磁、珠洲、砥石、土鍬 | | | | |

高岡市埋蔵文化財調査概報 第55冊

麻生谷新生園遺跡 調査概報

— 平成14年度 高岡市麻生谷地内西側急傾斜地区の砂防改良工事にともなう発掘調査 —

発行者 高岡市教育委員会

富山県高岡市広小路7番50号

2004年3月26日

印刷所 キクラ印刷株式会社

富山県高岡市福島18-2

写 真 図 版



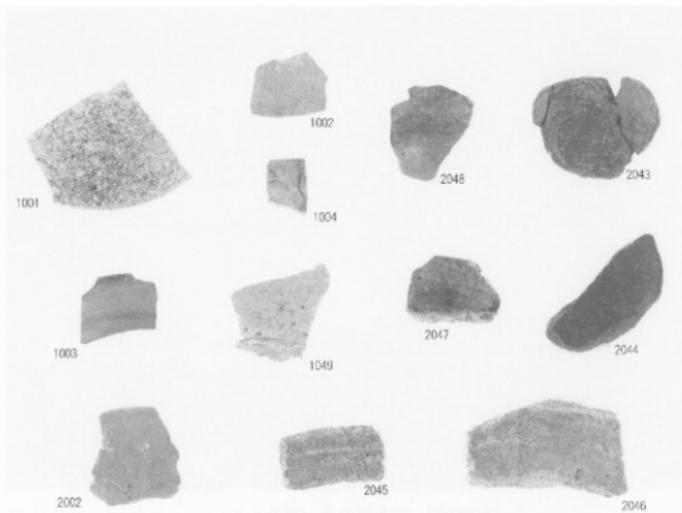
図版101. 調査区全景（垂直写真）



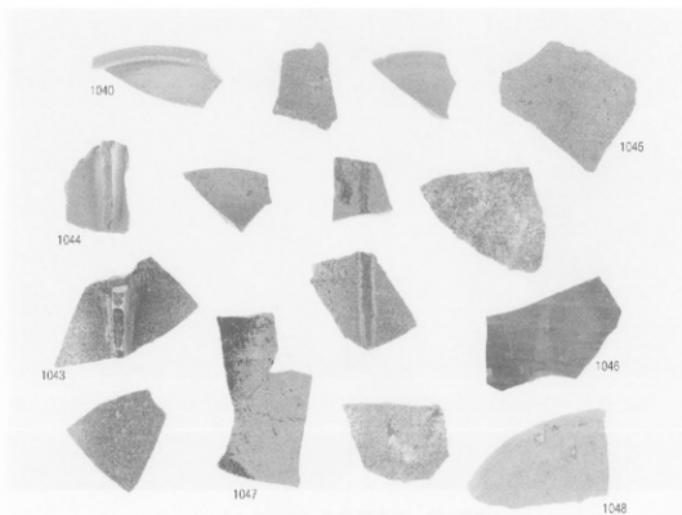
図版102. 調査区全景（東方から）



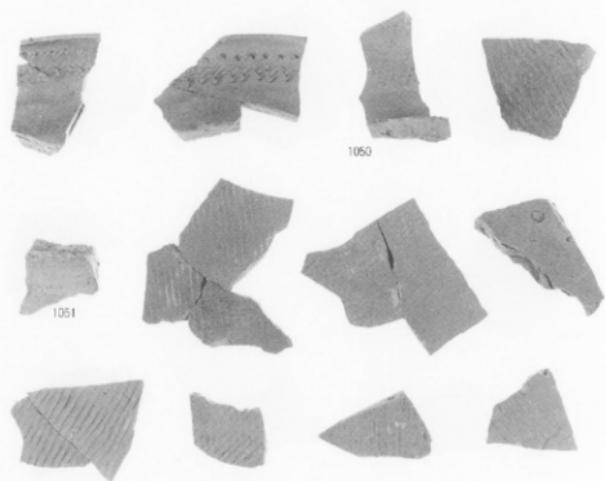
図版103. 調査区全景（北方から）



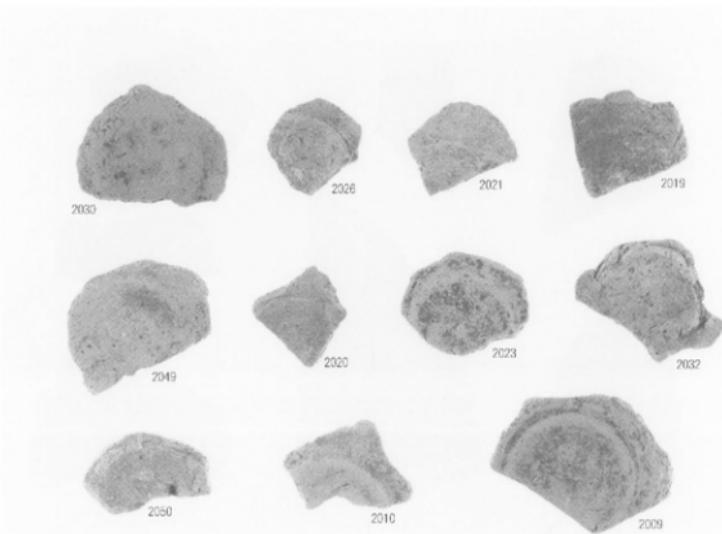
圖版104. 出土遺物（須惠器・蓋, 杯　　内黒土器　　土師器・椀, 瓢）



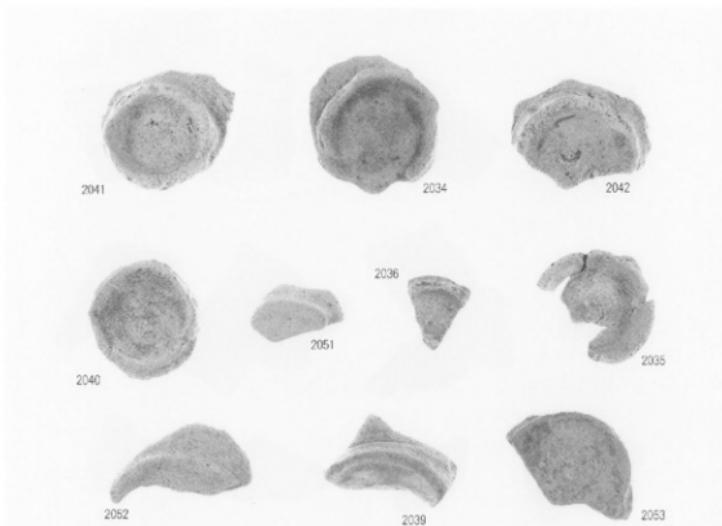
圖版105. 出土遺物（須惠器・壺, 瓶）



図版106. 出土遺物（須恵器・大甌）



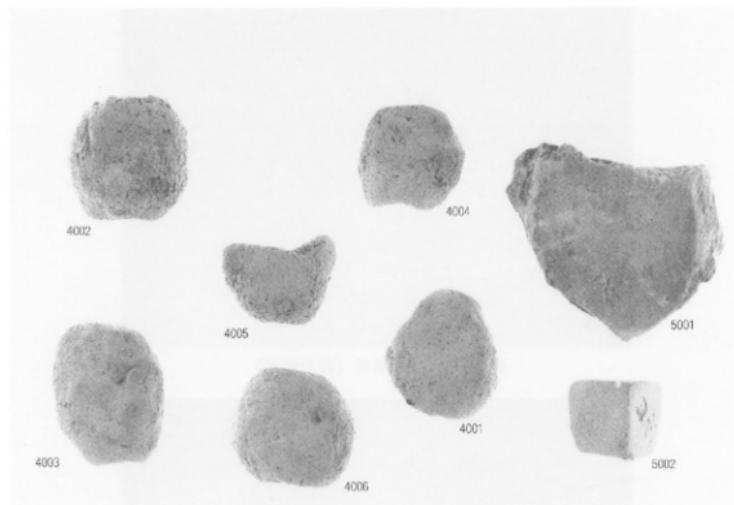
図版107. 出土遺物（土師器・杯、碗）



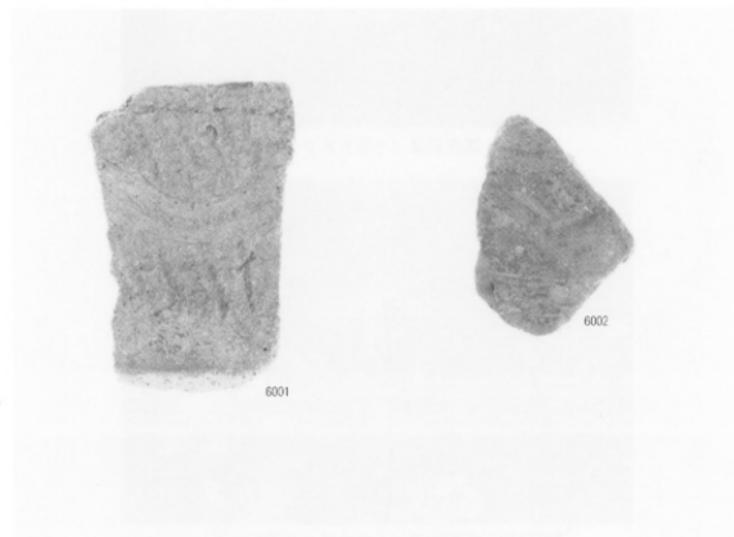
図版108. 出土遺物（土器・杯、碗）



図版109. 出土遺物（珠洲・大壺、鉢、すり鉢）



图版110. 出土遗物（土锤 砥石）



图版111. 出土遗物（弥生土器）



図版112. 調査風景（表土剥ぎ）



図版113. 調査風景（土坑SKO2掘削状況）



図版114. 調査風景（土坑SKO2掘削状況）

